

## ▲△▲ 剣岳へ 早月尾根ルート(個人山行) ▲△▲

報告 YA

◎山行日 令和元年 7月 30日～31日

◎メンバー KY、YA

自宅近くの低い山に出かけることはあるが、それはトレーニンの域を超えるものではなく、そんな山行はたびたび続いていた。

今夏、は、というよりも、今夏、も、天候不順とかで太平洋高気圧の発達が遅れ、よって、梅雨明けも遅れるのではと報道されていた。その予報はほぼ当たり、梅雨明けはどの地域も例年より一週間ほど遅くなった。昔から「梅雨明け十日」といい、梅雨明けから十日間は天気が安定するといわれるが、今年は梅雨明けしても大気は不安定で、毎日午後になるとさまざまな所で雷雨が発生していた。仕事を終えてからの夜立ちの予定でいた7月29日の午後、ここ新城市でも激しい雷雨があった。

剣岳の方はどうだろうと気にしつつ、新東名の新城 I.C.から高速道路に入り、東海環状道、東海北陸道へと繋ぎ富山県を目指した。岐阜県に入ると路面が濡れていた。日付が変わろうとしている頃に「松ノ木峠 P.A.」で車中泊とした。標高 1,000mを超えていて、涼しくて良い睡眠を得た。翌 30 日の朝の空模様は、心配していたとおりに悪かった。この日の早朝に早月尾根の登山口、馬場島へ向かう予定だったが、この空模様で推進力が落ちてしまった。

山行計画の中でフッと剣岳が浮かんだ。これまで二度、立山から登ったが「岩と雪の殿堂」の剣岳はいつも憧れの山である。今回、早月小屋でテント泊、翌日そこから剣岳をピストンという計画を立てた。が、早月小屋まで標高差 1,500m、荷物を担ぎ上げられるだろうか。荷物を軽くして日帰りの方がいいのではないか。二人とも高齢者である。以前のパワーはない。迷った挙句テント泊に決めた。

朝の空模様が悪くこの日の入山はやめることにした。雨はともかく雷は避けたかった。この辺りの決断は博打(やったことはないが)に等しい。どっちが良かったかは結果次第である。結局日帰りでピストンすることにした。今夜も車中泊、暑かった。

31日、3時頃起床し、暗黒の空に星はなく天気が良いとはいえず、剣の登頂は無理かなと思いつつ馬場島へ車を進めた。道は思いの外広く、不安なく馬場島に着いた。剣の麓のイメージでもっと険しい登山口を想像していたのだが、よく整備された環境だった。駐車場に車を止め、ヘッドランプを灯して準備に取り掛かる。初めての場所でどっちに進んで良いのか分からなかったがとりあえず上に進む。看板がありそれに従って進むと「剣岳 早月尾根を経て」という立派な石の道標があった。少し行くと木の階段の急登が現れた。剣岳の地図の説明書にあった『馬場島からいきなりの急登ではじまります』のとおりだった。天候の不安と自分自身の体力の不安を抱えて、いよいよ剣岳への登行が始まった。

ぐんぐん登って平坦な所に着いた。「ここは標高 1,000 m」という標識があった。以降、標高差 200m毎に出てくる標識である。周囲は既に明るくヘッドランプは不要となった。

空は曇っていたが前方にギザギザした稜線が見えていた。その後も樹林の中の登行が続き、雲も多く見通しは全くな



(ビックリ! 野生溢れる立山杉)

かった。それでも立山杉のデカさ、荒々しさには感じ入るものがあった。所々緩やかにはなるが急坂が続いていた。

やがて一つのピークに上がると前方に小屋が見えた。早月小屋である。ここまで4時間 10分、いいペースといえるが疲れは大きかった。ザックの中にはツェルトやコンロ等が入っている。また水分も3L入れていた。日帰りとはいえフル装備で、急坂が続き疲れてしまっていた。この小屋前でしばらく休み、もし天気が崩れればそこまでという思いで先に進んだ。樹林帯を抜け急坂を登り切ると展望が開けた。が、後方は立山だろうか？見えるのはそれくらいだった。自分のペースは全く上がらなかったが、KYさんは元気になってきた様子、タフな人だ。

先の標識が標高 200 毎に現れる都度、自分が休憩を要求し水分を補給する。着ている物は汗でぐっしょりだった。単独だったならここから下山しただろうと思いつつ足を運ぶ。上から下りてくる登山者が「昨日、一昨日は全然良くなかった。今日は上は晴れている」と言う。その言葉を励みに足を前に出す。森林限界を越える。雪渓が現れる。どこにルートがあるのかという光景を幾度も目にする。クサリ場が次々に現れ、左側が絶壁の所を、人工的に岩に刺した一本の鉄の棒を足場にして通過する。

「岩と雪の殿堂」がガスに覆われている中、雷鳥に出会いコイワカガミやダイヤモンドソウ、クルマユリ等の高山植物に癒される。やがて標高 2,800mの標識に着く。『剣頂上まで 700m』の表示もあった。



(ガスの中クルマユリに癒される)



(最後の標識 あとひと踏ん張り)

厳しい登行が相変わらず続き、垂直に近いと感じるほどの岩場をクサリを頼りに上に進んだ。そして別山尾根からのルートの分岐点に着いた。上からひとり下りて来て「小屋の者です。山頂までどれ程ゆっくり行っても 10分はかからない。下山でバテたら小屋に泊まってください」と言う。

11時 59分剣岳山頂の祠に着いた。自分たち以外の登山者は一人だけだった。貸し切りの剣岳山頂である。空は相変わらず曇っていたが、銀次郎尾根を見下ろすことができた。

(左：剣岳山頂)



(右：ガスに煙る  
岩と雪の殿堂。  
源次郎尾根を  
見下す)



パンを食べ水分をたくさん摂り下山にかかった。早月小屋までは緊張の連続だった。途中で左足に痙攣が生じたが、漢方68と歩き方で大事にはならなかった。

早月小屋でビールとジュースを購入し乾杯した。そして我慢して馬場島まで下った。

[記録] 7月31日 4:20 馬場島→8:30 早月小屋→11:59 剣岳山頂着～12:17 剣岳山頂発→早月小屋→17:56 馬場島

このルートは高度を上げるに連れ剣岳の岸壁が迫力を増してくるようだが、天候が悪くて何も見えなかった。近いうちに天気の良い時に再訪したい。まあその際は早月小屋に一泊して登りたいと思っている。

(了)